

白山社会学会会報

発行 白山社会学会 <http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/6234> 事務局 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学社会学部気付
郵便番号 00160-8-134254 白山社会学会 年会費5000円・学生会費3000円・入会費なし・寄付金歓迎

第22回 白山社会学会大会 開催予定

日時：未定（12月の土曜日）
会場：未定（白山）

第21回白山社会学会大会開催

白山社会学会第20回研究大会は、2003年12月20日（土）白山校舎2号館16階スカイホールにて、11:30より開催された。

総会 12:00-12:45（於スカイホール左）

特別企画 14:00-17:30（於スカイホール中央）

ホテーム

東洋大学大学院社会学研究科で博士論文を書く。

13:00-14:00 朝倉美江氏 報告

生活福祉と生活協同組合福祉。

2002年3月 社会学博士号取得

現在、中部学院大学 人間福祉学部所属

14:00-14:45 主音・園田恭一教授のコメント、および質疑応答

15:00-16:00 牧野修也氏 報告

「農家後継者の“教育戦略”と農民学習運動」

2003年3月 社会学博士号取得

現在、埼玉区大塚期大学 非常勤講師

16:00-16:45 主音・小林幸一郎教授のコメント、質疑応答
＜懇親会＞ 今年度は行なわれませんでした。

総会報告

2003年12月20日の大会時に第21回白山社会学会総会が開催された。

古川孝順会長の挨拶の後、市川藤雄氏が議長に選出された。

【活動経過報告】2002年12月～2003年11月

13月1日、第5回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会開催

23月1日、第9回関東地区 社会学・社会学福祉学修士論文等発表会開催

33月1日『白山社会学研究』第11号発行

④4月1日『白山社会学会ニューズレター』第24号発行

⑤白山社会学会主催 月例研究会開催（別紙の通り）

⑥新規会員数 13名

【会計決算報告】会員の方は同封別紙をご参照下さい。

【会計監査報告】会員の方は同封別紙をご参照下さい。

【活動計画案】

①第6回児童館・学童保育関連卒業論文等発表会開催

②第10回 関東地区社会学・社会学福祉学修士論文発表会開催

【会計予算案】会員の方は同封別紙をご参照下さい。

第9回関東地区 社会学・社会学福祉学 修士論文発表会

2004年5月6日（土）、9:30より第10回関東地区社会学・社会学福祉学修士論文発表会が白山、浦水会館4階で開催された。発表者と発表題目は以下の通り。

【プログラム】

第1セッション 9:30～ 司会：稲沢公一（東洋大学）

1. 楠 佳子（大正大学大学院 人間学研究科 社会学福祉学専攻）

「都市部における特別養護老人ホーム入所者への退所支援に関する研究」

2. 日下 高子（大正大学大学院 人間学研究科 社会学福祉学専攻）

「高次脳障害者をめぐる社会学福祉的課題～求められる支援とは」

3. 且末 美希（上智大学大学院 文学研究科 社会学専攻 社会学福祉コース）

「メンタルヘルス・サービスにおける現場職員のパフォーマンス理解～先行文献におけるパフォーマンス理解と臨床実践現場職員への質的調査による検索的研究」

4. 亀井 聡（駒沢大学大学院 人文科学研究科 社会学専攻 児童養護施設における就労支援

＜休憩 10分＞

5. 山岸 裕子（都立大学大学院 社会科学研究科 社会学福祉学専攻）

「障害者運動における平等派・差異派という枠組みの検討～ひとつの可能性としてのLL運動」

6. 村田 文世（日本女子大学大学院 人間社会研究科 社会学福祉学専攻）

「委託事業」と当事者組織の自律性～障害者自立生活センターの「支援事業」を事例として

7. 内田 安明（東洋大学大学院 社会学研究科 福祉社会学システム専攻）

「不登校の子ども支援策再編への視点に関する研究～不登校経験者へのインタビュー分析からの検討」

＜第1セッションコメント＞

森田明美（東洋大学）・稲沢公一（東洋大学）

昼食 13:05～14:00

第2セッション 14:00～ 司会：西野 理子（東洋大学）

1. 水野 典子（東洋大学大学院 社会学研究科 社会学専攻）

宗教の心理的影響過程～憲友会における検討。

2. 関谷 ゆかり (お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 発達社会科学専攻 応用社会学コース)
＜老人へのセクシュアリティの歴史社会学的考察＞
 3. 中村 英代 (お茶の水女子大学大学院 社会学研究生)
「摂食障害からの回復」
～近代社会論的アプローチからの考察
 4. 高橋 亨 (東洋大学大学院 社会学研究科 社会学専攻)
鹿児島県西之表市N地区の一人暮らし高齢者の実態
～相対的剝奪指標によるアプローチから。
 5. 加藤 裕康 (東京経済大学大学院 コミュニケーション学
研究科 コミュニケーション学専攻)
ゲームセンターに集う若者たち
～コミュニケーションノート考察。
- <第2セッションコメント>
原山 哲 (東洋大学)・西野 理子 (東洋大学)

第6回

児童館・学童保育関連卒業論文・修士論文等発表会

日時：2004年3月6日(土) 10:45～17:00 開場：10:15
会場：東洋大学(白山キャンパス) 雨水会館(2階)
主催：東洋大学白山社会学会/子育てナリサーチ・ネット・MPO
法人「青少年ネット」
対象者：児童館・学童保育の現場職員、児童館・学童保育に
関心を有する方(学生、研究者、教員、一般住民など)
参加費：無料。但し、「卒業祝賀・交流会」の会費は別途徴
収(3000円程度、学割特価設定)

<プログラム>

- 10:45～11:00 主催団体挨拶、オリエンテーション
A会場：メインテマ「子どもの育ちを促す環境」
- 第1部：児童館の現状とポスト児童館
座長：所 貞之 (立教大学)
- 11:00～11:30 「東京都における児童館行政と現場の実態」
堀越雅子 (日本女子大学家政学部児童学科)
- 11:30～12:15 「戦後わが国の統廃合校舎についての研究」
～その歴史的特質と活用事例の分析
児頭雪子 (日本福祉大学大学院社会福祉学専攻)
- 12:15～12:45 包括討議 1
12:45～13:45 昼食・休憩
- 第2部：「居場所」としての児童館・地域子ども施設
座長：高野山美子 (日本女子大学)
- 13:45～14:15 「新しい「大人」子ども関係」をめざして
児童館における職員と子どもとのかかわり
菱山裕子 (日本女子大学家政学部児童学科)
- 14:15～14:55 「稲城市城山児童館時間延長開放事業」
通称「サクセス」における二年間の成果
齋藤元久 (明治大学大学院農学研究科)
石挽利之 (明治大学文学部史学地理学科)
- 14:55～15:40 高校生の「居場所」施設利用の実態と
その拡大の可能性―岩手県水沢市を事例として
上田一成 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教育学専攻)
- 15:40～16:25 包括討議 2
- B会場：メインテマ「地域における子育て支援と支援者の

あり方」

- 第1部：放課後における子育て支援のあり方
～学童保育と全児童対策
座長：立柳 聡 (福島県立医科大学)
- 11:00～11:30 「もうひとつの家庭としての学童保育の可能性」
～飯能一小どろんどろんクラブの実践より
飯野秋津 (埼玉大学教育学部生涯学習課程社会教育コース)
- 11:30～12:00 「地域の子育て支援システムのあり方に関する」
一考察
東京都品川区における「小学生の放課後対策」のシステム
上のあり方

- 佐藤晃子 (埼玉大学教育学部生涯学習課程社会教育コース)
- 12:00～12:30 包括討議 1
12:30～13:30 昼食・休憩

- 第2部：児童館・学童保育・地域子ども施設における
援助方法と支援者養成

- 座長：小木美代子 (日本福祉大学)
- 13:30～14:00 「学童保育指導員の援助技術の専門性について」
中野絵梨子 (日本女子大学人間社会学部社会福祉学科)
- 14:00～14:45 「高機能広汎性発達障害の子どもの遊びグルー
プの実践」

- 庄司 愛 (東京都立大学大学院人工科学研究科教育学専攻)
- 14:45～15:15 「大学と児童館の連携が持つ可能性」
児童厚生員ジャンボリーを主題に
吉原 真 (明治大学文学部史学地理学科)
- 15:15～16:00 包括討議 2

- 16:30～17:00 全体総括と挨拶 各座長ほか
*終了後、会場近隣で「卒業祝賀・交流会」(17:30～19:30)
を開催

研究例会

- ・第40回 (2003. 11. 28)
- ①式恵美子 「高齢者退院時におけるケアマネジメントの課題
～高齢者と家族の退院時準備状況調査から」
- ②田島明子 「障害者が希望し、自信が持てる就労のかたち
についての一考察(障害者就労に関する雑誌記事と当事者への
インタビュー調査を手がかりにして)」
- ・第39回 (2003. 10. 24)
- ①喜勢昌枝 「第51回日本社会福祉学会報告―記念講演を中心
に―」
- ②樋口キエ子 「医療的ケアに慣れる過程で家族介護者が体験
する出来事―在宅介護開始の早期時に大変なこと・トラブル
の分析から―」
- ・第38回 (2003. 7. 25)
- ①星野恭志 「支援費制度実施をめぐる利用者や運動の側に求
められる課題と取組み」
- ・第37回 (2003. 6. 27)
- ①長竹教夫 「精神障害とソーシャルワーク援助の留意点」
- ②長竹教夫 「ホームレス患者へのソーシャルワーク実践―退
院までのパターン分析からの一考察―」
- ・第36回 (2003. 5. 23)
- ①沖野光敏 「学校臨床社会学の社会福祉学への応用」
- ・第35回 (2003. 4. 25)
- ①喜勢昌枝 「1982年の英国パークレイ委員会報告から」

・第34回(2003.3.14)

①反町誠「精神保健福祉士養成課程の充実に向けて―相談事例からみた現場の課題を通して―」

・第33回(2003.2.28)

①星野恭志「介護保険と低所得者対策―ドイツ法を参考として―」

・第32回(2003.2.14)

①山手茂著「『患者』から『生活者』へ―新しい人生の創造者―」

・第31回(2003.1.31)

①和秀俊「『共同福祉』形成に向けての地域スポーツクラブの可能性の検討―スポーツ活動の開放的な『交流』と市民活動としてのクラブ機能に注目して―」

2004年3月をもって退職された先生方

社会学科	池田正敏先生
社会心理学科	松本恒之先生
社会福祉学科	稲沢公一先生

計 報

田村健二先生(名誉教授)が2004年3月17日に逝去されました。葬儀は3月22日に世田谷区の公益社利用賀会館で執り行われました。

メディアコミュニケーション学科の今田好彦教授が2003年6月25日に急逝されました。葬儀は6月28日浦和セレモニー・ホールで行なわれました。

会員の近著紹介

*宇治伸「富山の民俗・社会事典」新響社、2003年10月1日発行。

*長野晃子「日本人はなぜいつも『申し訳ない』と思うのか」草思社、2003年11月28日発行。日本文化こそ『罪の文化』であると、ルース・ベネディクト『菊と刀』への反論が示されている。

*松本誠一編「生活文化論ノート」高志書院、2004年2月10日発行。共著者は井出弘毅、平山真、石井孝子、對馬秀子、上屋久の各氏で、いずれも東洋大学大学院社会学研究科在籍ないし修了者。

学 位

*以下の通り、2003年度中に本学から学位授与が行われました。

- ・小林修一 博士(社会学) 乙
「人間学からの社会学―社会学的パラダイムの新しい展開」
- ・村社 卓 博士(社会福祉学) 甲
知的障害者の就労支援における交互作用分析
―強さの相互確認に基づく社会的有用観の獲得
- ・楠 秀樹 博士(社会学) 甲
「ホルクハイマーの思想形成における『経験』(Erfahrung)をめぐる現象学と唯物論の交差について
―1920年代の認識論から1930年代の社会哲学への転換

関連団体の動向

・二季の会

東洋大学大学院社会学研究科福祉社会システム専攻修了生の会<二季の会>による「秋の集い」「春の集い」が以下のように開催された。

「秋の集い」 2003年9月

5周年記念シンポジウム「社会人大学院が育んだもの」

シンポジスト:宮勢昌枝・反町誠・岡夢枝子

「春の集い」 2004年3月

5周年記念シンポジウム「社会福祉の専門職養成と社会人大学院」

シンポジスト:丸山晃・黒田緑・小林信篤・坂田祥子

コメンテーター:片平潤彦教授

宮城道子・高橋克典・松永文和編集「二季の会5周年記念誌『社会人大学院で育んだもの』」2004年3月発行、二季の会

・社会科学基礎論研究会

来る5月29日に本年度第1回研究会が開催されます。詳しくは下記をご参照下さい。

事務局 〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1

大正大学人間学部社会学研究室(井出) 気付

e-mail h_jdc@mail.tais.ac.jp

世話人 井出裕久・佐野正彦・張江洋直

HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssst/index.html>

学内動向

・平成16年度社会学部新任教員

社会福祉学科 金子光一 助教授

メディアコミュニケーション学科 信太謙三 教授

社会心理学科 黒沢 香 教授

・昇格

助教授から 高山直樹 教授 社会福祉

海野 敏 教授 メディア

中村 功 教授 メディア

講師から 西野理子 助教授 社会

・学部・大学院の平成16年度役職者

社会学部長 船津 衛

第1部 社会学科主任 大坪省三

第2部 社会学科主任 三石庸子

社会文化システム学科主任 駒井義昭

メディアコミュニケーション学科主任 戸田真一

社会心理学科主任 杉山憲司

第1部 社会福祉学科主任 森田明美

第2部 社会福祉学科主任 坂口正治

社会学研究科委員長 細井洋子

社会学専攻主任 島崎哲彦

社会福祉学専攻主任 佐藤豊道

福祉社会システム専攻主任 片平潤彦

社会心理学専攻主任 安藤清志

・白山西側校地に新校舎建設

白山通り（バイパス）に面した西側校地に2005年4月から使用される校舎建設が急ピッチです。これにより、文系4学部の朝霞教育が白山に統合されます。そして、朝霞には新学部・大学院の2005年4月立ち上げを目指し準備中です。

海外東洋大学社会学校友の消息

韓国

- ・ 崔柏（社修・社会学博士）
社会学教壇からは引退され、ソウルのご自宅在。脚のため外出を大分控えておられます。
- ・ 小澤康則（社博）
韓国外国語大校日本語科教授（ソウル）
某新聞の日本語版（インターネット版）チェックもされています。滞韓20年を迎えます。同大は東洋大姉妹校です。
- ・ 金龍澤（福博・社会福祉学博士）
東国大校社会福祉学科教授（慶州）
慶州キャンパス企画部長。週末・月はソウルに行き、ソウル・キャンパス大学院での授業担当、下記研究所の所務もみておられます。東国大も東洋大姉妹校です。
財団法人・青祐仏教文化院 付設・仏教福祉文化研究所 所長（ソウル）
- ・ 張世哲（福博・社会福祉学博士）
韓瑞大校老人福祉学科（忠南瑞山市）
- ・ 金美榮（社博・社会学博士）
安東大校民俗学科非常勤講師（慶北安東市）。安東地域110同族村落調査プロジェクト責任者として、来る6月4日中間報告学術大会主催。
- ・ 鄭憲錫（応社マスコミ）
株・ソウル総合金融キャピタル、常務理事
銀座にある東京支社にもよく来られるそうです。

台湾

- ・ 呉素儀（社博・社会学博士）
輔仁大学社会学系教授（台北県新莊市）
同大学は東洋大学の姉妹校です。
- ・ 余巧芸（福博・社会福祉学博士）
東吳大学社会工作系
2003年秋、佐賀大の国際シンポジウム（本会会員、田中豊治教授・北川慶子教授らが主催）に参加。
- ・ 林秀光（社博）
自営（漢方薬・健康相談）
- ・ 孫彰良（福博後・社会福祉学博士）
朝陽科技大学社会工作系助理教授（台中県）
2003年3月に学位を受けて帰国後、順調に専任職に就かれました。

タイ

- ・ チンスイモン・ブンヨン（社博・社会学博士）
チュラロンコン大学政治科学部（バンコク）、板倉国

際地域科学部、国際共生社会研究センターのタイでのプロジェクト、アジア文化研究所学術フロンティア調査（松本2004）に協力・支援。

白山社会学会役員一覧（平成16年度）

- 会 長 古川孝順
- 副 会 長 船津衛 米林喜男
- 運営委員 青木辰司 秋元美世 穴田義孝 池田正敏
泉田 渡 稲沢公一 茨木竹二 大島 尚 大塚省三
大友信勝 大畑裕嗣 片平剛彦 酒井 出
佐藤豊道 島崎哲彦 須田木綿子 田中豊治
坪井 健 中山伸樹 西山 茂
- 企 画 小林修一 西山 茂 米林喜男
- 会 計 坂田伸子
- 監 事 末成道男
- 顧問 岩井弘融 奥田道大 酒井俊二 園田 恭一
高橋統一 高橋直之 藤本三千人 山下架装男
山手 茂
- 運営事務局長 森田明美（事務局長）
吉川かおり 市川藤雄（広報） 上芝栄子 春山 勝
立柳 聡（児童館・学童保育卒論等発表会）
『白山社会学研究』
- 編集委員 青木辰司（編集委員長）
川池智子（庶務） 大島 尚 酒井俊二
清水浩昭 坪井 健
- 査読委員 安藤清志 稲沢公一 宇都宮京子 久保ゆかり
小林幸一郎 駒井義昭 須田木綿子 西沢晃彦
原山哲 藤林慶子

事務局よりお知らせ

- ・ 『白山社会学研究』第12号
本ニュースレターと一緒にお届けします。
- ・ ご挨拶を欠いたまま、事務局の松本は2004年4月から1年間の海外長期研究に従事しておりました。この間、従来にもましてご迷惑をかけた。アジア文化研究所の学術フロンティア（文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の一つ）計画の一環で、韓国ソウルに拠点をおき、文献研究や、現地調査を行いました。韓国内の調査を中心に台湾・シンガポール・バンコクにも足を伸ばしました。
1年ぶりに帰って見ると、白山は、受験生を増やす対策、来年度の朝霞統合教育課程編成、朝霞に新学部開設、社会学部50年史（2008年）編纂などの課題が目白押しです。（文責・松本）